

○各市町の協議項目意見

	【協議3】 (仮)みやぎ仙南サイクルガイドマップについて	【協議4】 (仮)みやぎ仙南チャリフォトコンテストについて	その他
白石市	DMO等でも同様の事業があるので、連携して実施した方が良いのではと思います。	DMO等でも同様の事業があるので、連携して実施した方が良いのではと思います。 SNSでの情報拡散を期待するのであれば、インフルエンサーの活用が必要だと思います。	
角田市	資料の中に、サイクリストはHPやSNSのほか、パンフレットを資料に活動をする傾向があることからガイドマップを作成するとありますので、実際の使用シーンを調査し、形式や掲載内容を検討した方が良いのではないのでしょうか。(ポケットから出し入れしながら何度も見るのであればミウラ折りで作成しては)	資料の中に、サイクリストは走行のたびに写真撮影を行いSNSにアップすることから、自主的に観光PRを担う存在にもなっているとの記載がありますので、非常に良い取り組みだと思います。どのように募集(情報発信)し、応募(投稿)させるか、その仕組みが重要と考えます。	サイクルツーリズムの先進事例があるかと思いますので、その成功と失敗を参考にし、事業計画を検討するのが良いのではないのでしょうか。
蔵王町	市町村ごとにどのようにサイクリングコースを作成していったらよいか。		市町村間の温度差をどのように埋めていくか。
七ヶ宿町	特に意見はありません。	特に意見はありません。	特にありません。
大河原町	一案として、初心者向けサイクリングコースだけを作るというのはどうか。「入門者はまず仙南地域を走ってみたら」という導入。上級者は自分でルートを考えられるので、どこを行ったら良いかという初級者向けの入門編、手始めの知識、留意点を掲載するなど、仙南地域自体でも入門者を増やす企画を入れる。	PR素材として、イベントの写真が多い。年1回ぐらいのイベントの写真ではなく、通常に仙南地域を走っていて、魅力ある写真がこのくらいあるという素材をそろえるためにも、サイクリストが所有している写真を集めたい。写真を介してサイクリストは反応を高め、情報発信を強めていただけるものと考え	3月に行われた鳥の海をスタートにした大会は、一人6,000円参加費でも200人のサイクリストが集った。情報入手はフェイスブックが主と聞いています。情報発信の仕方によってはサイクリストの情報入手先に入れていただき、仙南地域のPR強化が図れると考えます。
村田町	特になし	特になし	
柴田町	持ち歩きに便利な②案のA4冊子がよいと思う。	特になし。	
川崎市	マップを作る際は、ルートを掲載するのか。 掲載する場合、ルートは市町を跨ったものか、市町ごとのルートになるのか。	特に無し。	
丸森町	すでにサイクルガイドマップを作成している自治体は2重作成になるため経費に対する費用対効果が感じられない自治体がある。	協議2においてのモニターによる分析調査で眺望・撮影スポットに関する事項を調査するのであればフォトコンテストは不要であると考え。	財政上経費負担するのが厳しい状況である。 お金をかけない政策を考えてみてはどうか。